

トルコギキョウの栽培における赤色光の利用

第1報 11～12月出し栽培における切り花長に及ぼす影響

門田太志

Use of Red Lighting on *Eustoma grandiflorum* (Raf.) Shinn. Cultivation

I. Effect of Lighting on the Length of Cut-flower from November and December Shipments

Taishi KADOTA

要 約

トルコギキョウの11～12月出し栽培では、定植時の高温・長日の影響による早期発蕾によって切り花長が短くなり、切り花品質が低下する。そこで、切り花長を長くすることを目的として赤色光を利用した電照方法について、電照時間帯、電照時間数、放射照度および品種適応性を検討し、以下の結果を得た。

1. 育苗中に赤色LED電球を用いて3時間の電照を行った場合、‘ボレロホワイト’では苗の生育が抑制されるが、日没後電照および暗期中断した苗を定植することで、主茎長および切り花長が長くなった。
2. 定植から頂花発蕾まで赤色LED電球を用いて電照した場合、‘クラリスピンク’では午前0時を中心とした9時間の暗期中断により節数が増加し、主茎長および切り花長が長くなった。
3. 定植から頂花発蕾まで赤色LED電球を用いて9時間の暗期中断を行った場合、‘クラリスピンク’では放射照度が0.04 W/m²以上で節数が最も増加した。
4. 定植から頂花発蕾まで9時間の暗期中断を行った場合、光源としては赤色LED電球が電球色蛍光灯よりも品種適応性が高く、切り花品質の向上効果も高かった。

キーワード：トルコギキョウ，電照，赤色光，花芽分化，切り花長